

福岡県は全国2位の生産量を誇るキウイフルーツの一大産地です。平成28年、そんな福岡県に、おなじみのグリーンキウイ「ヘイワード」や果肉の中心が赤い「レインボーレッド」に続く品種として、福岡県オリジナルの「甘うい」が誕生しました！

「甘うい」は、実が大きく、その名の通り“あま〜い”ことが特徴。その糖度はなんと16度以上(「ヘイワード」が糖度13~15度)です。JAみなみ筑後キウイフルーツ部会長の佐藤康孝さんは、「ほのかな酸味もあり、甘さと爽やかさのバランスが最高!」と胸を張ります。また、収穫期が他の品種の作業時期と重ならず、キウイ栽培の拡大が見込める新品种として、農家の期待も大きいそうです。

今年は11月上旬に販売開始予定の「甘うい」。生まれたばかりでまだまだ販売量は限られます



日照や水はけなど、環境に恵まれた園地で収穫を待つ「甘うい」



「甘くなれよ」と優しく声を掛けながら手塩にかけて育てる佐藤康孝さん

が、今後もJAみなみ筑後をはじめ、県内のキウイフルーツ産地が一体となって生産拡大やブランド化に取り組んでいきます。

問い合わせ ※注文販売は行っていません
園芸振興課
 ☎ 092-643-3487 ファクス092-643-3490
JA全農ふくれん 生産販売課
 ☎ 092-762-4745 ファクス092-721-2674

vol.6

知ってる? 福岡県
Do you know Fukuoka?

見るとラッキー!?

九州国立博物館の門番「フクロウ」

まるで本物! 北側に設置されたフクロウ(どこにあるかな?)



「福来郎」「不苦勞」などの語呂合わせから、縁起が良い鳥とされているフクロウ。九州国立博物館には、そんなフクロウの模型が2体設置されていることをご存じでしたか?

九州国立博物館は平成17年の開館当初から、景観保護に配慮した鏡面加工の外観が話題になりました。ところが、空や森が映る博物館に、間違えて衝突してしまう野鳥がいたため、平成20年に設置されたのがフクロウの模型2体です。野鳥たちが怖がって近づかない猛禽類のフクロウの模型を衝突しやすい箇所に設置しています。今では、フクロウを探して散策する来館者の姿も見られるようになりました。



4月から夜間開館(毎週金曜日・土曜日の開館時間を20時まで延長)がスタートし、太宰府天満宮などの周辺施設と協力して、夜の古都太宰府とともに、さらなる魅力の創出を図っている九州国立博物館。毎月第一土曜日には、「夜の博物館たんけん隊」と題して博物館の裏側が見学できる人気のバックヤードツアー(無料。ただし文化交流展の観覧料が必要)も実施中です。日中に確認できるフクロウを含め、展示以外の見所も盛りだくさん。ぜひお越しください!



(写真左) 衝突した鳥の一部を剥製として4階文化交流展示室に展示(写真右) 渡り鳥のシロハラ剥製

問い合わせ：九州国立博物館(太宰府市石坂4-7-2)
 ☎NTTハローダイヤル 050-5542-8600
 ファクス 092-929-3276

景観保護に配慮して外壁に鏡面加工を施している九州国立博物館